

子どもへの対応・治療テクニック・伝え方をUPDATEするための一冊！



月刊「歯界展望」別冊

子どもの歯科臨床 UPDATE

Q & A でわかる！ 対応・治療の最新情報

井上美津子・田中英一・藤岡万里 編著

A4判変/192頁 定価 6,264円：本体 5,800円＋税
医歯薬出版（2018年5月）

九州看護福祉大学看護福祉学部口腔保健学科
評・石井里加子（歯科衛生士）



「そういえば最近、成人や高齢者ばかりをみている」という方は多いのではないのでしょうか？ わが国の少子高齢化に伴い、歯科医院に訪れる患者さんの年齢層は高くなり、歯科臨床現場では子どもに接する機会が減少しています。そして、歯科衛生士の興味関心は高齢者や要介護者に向けられ、雑誌や研修会で更新されている情報は高齢者のものばかり……。しかし、最近の子どもをもつ保護者の口腔保健に関する意識は高く、テレビや雑誌、ネットなどによって知識もたいへん豊富になっています。また、歯科衛生士に投げかけられる質問は「齲蝕」から「口腔機能」に変化し、ちょっと古い情報や自身の育児経験をもとにした「指導」では太刀打ちできなくなっています。

本書はタイトルどおり、最新のトピックスや

情報、そしてエビデンスを交えて、子どもや保護者への対応や予防、治療、口腔機能、妊婦への対応など、小児歯科臨床が丸ごと盛り込まれています。3部構成で、日常臨床に活かしやすいQ & A形式でまとめられています。写真や図、表が多く用いられ、視覚的にも学びやすく、「手元に置いておきたい！」と感じる1冊です。

「Chapter1 はじめに」では、最近の子どもや保護者の実状と、歯科医療従事者が小児歯科保健医療に臨む姿勢について書かれています。「Chapter2 子どもの歯科臨床 UPDATE」では、保護者からの相談が多い「指しゃぶり」「卒乳のタイミング」「嘔まずに丸のみ」などの話題や、「虐待」「アレルギー」「口呼吸」「歯並び」「酸蝕症」などのさまざまな環境の変化による子どもの健康問題が取り上げられ、基礎知識から観察ポイント、つねに忙しく悩みの多い保護者への支援方法など、明日からの臨床にすぐに活かせる内容です。また、2017年3月に認可された「高濃度フッ化物配合歯磨剤」や、2018年3月の歯科診療報酬改定で収載された新たな病名「口腔機能発達不全症」についてもくわしく解説されています。「Chapter3 さらに詳しく知っておこう」では、歯と口が心や身体とともにどう成長発達していくのか、1歳6カ月児・3歳児健診の意味やみるポイントなどが書かれています。個々に合わせたセルフケアや口腔機能を育成していくうえで欠かせない知識です。さらに本書のよい点は、Questionごとに参考文献が明示されており、すぐに検索できる点です。いま、歯科衛生士は目の前の対象者だけでなく多職種に対しても、根拠に基づいた歯科衛生活動が求められており、裏づけのある臨床につなげるためにもぜひ活用してほしいです。

子どもたちの未来を支える一職種として、「子どもに強くなる！」ための必読の一冊です。